

2023年8月1日

神戸学園都市 YMCA こども園 8月えんだより

8月の聖句「わたしは雲の中にわたしの虹を置く。」

創世記9章13節

今年の梅雨は、例年以上に多くの地域で洪水となるほどの厳しいものとなりました。そして、その梅雨が明けてからは、例年以上の厳しい暑さが続いています。そのような、厳しい自然環境の中ですが、様々な工夫を凝らしつつ、一日一日を子どもたちと共に楽しく過ごせるように願っています。

ここ数日、小さな子どもたちの命が奪われる、また、脅かされるニュースが続いています。そして、その多くが、本来「見返りを求めない愛」「無限の愛」であるといわれるものを注ぐはずの「親」が加害者となっています。本当に胸が張り裂けそうな思いになります。また、同様に、先日の中学校へ刃物を持って侵入した青年は「助けてください。このままでは人を殺してしまいそうだ。」と話をしていたとの報道もありました。幸い、この青年は人の命を殺めるまでには至らなかったのですが、彼の悲痛な叫びにも・・・。

人類は、これまでの歴史の中で学び、人種や文化、性、宗教などのお互いの違いを受け入れ、認め合うように「多様性を受け入れる」方向で歩んできました。多くの国や地域でそのための様々な取り組みやルール作りも進めてきているはずですが、しかし、人々の現実はどうでしょうか。様々な通信手段の発達により、より多くの人々が多様な情報を目にする中で、自身の現実をより明確に知り、他者への「恨み」や「妬み」といった感情を大きくしてしまっているのではないのでしょうか。このような状況は、個人レベルでも国家レベルでも起こっているように感じます。そして、悲しいことに、このような負の感情は、自分よりも弱い立場の人々への攻撃のエネルギーになっているように感じます。なぜこのような状況に陥ってしまうのでしょうか。

「主は、地上に人の悪が増し、常に悪いことばかりを心に思い計っているのを御覧になって、地上に人を造ったことを後悔し、心を痛められた。」と聖書に書かれています。そして「これを地上から拭い去ろうとした。」とも。神様はぬぐい去るために大洪水を起こされ、多くのものを滅ぼされました。けれども、その後、神様は自らのその行動を後悔し、二度と滅ぼすことをしないと契約してくださいました。そのしるしとして雲の中に「虹」を置いてくださったのです。

小さな子どもたちの命が奪われた場所には、多くの花が手向けられています。この花の一本一本、また、人の命を殺める一歩手前での「助けてください。」との青年の叫びは、神様が置いた新たな契約のしるしとしての「虹」であるように感じます。

私たちのすべてを受け入れ、すべてを赦し、すべてを愛してくださる神様の愛のしるし、「虹」を一人でも多くの人々が愛でることを忘れずに「平和」な毎日を歩むことができるように願っています。

8月	乳児 (0,1,2 歳児)	幼児 (3,4,5 歳児)
月主題	たのしい	たのしむ
月の願い	*夏の生活をゆったり健康に過ごすなかで、周囲に興味を広げ、“たのしい”をたくさん感じてほしいと思います。	*暑い気候の中で、家庭や園それぞれの場所で、たくさんの人やあそびと出会い、夏ならではの体験を楽しんでほしいと思います。
讃美歌	「ちから」 幼児讃美歌Ⅱ15	「うみでおよぐ」 幼児讃美歌28